

○本県では、水田において初期投資が少なく、誰もが取り組みやすい果樹品目として**イチジク栽培を推進し**、産地化を進めている。

○栽培面積の**7割を占める露地栽培**は、降雨による果実品質低下が課題となっており、その対策として**低コスト簡易雨よけ栽培技術の実証と普及**に取り組む。

○**産地間連携の強化**や、市場とのマッチングにより、市場出荷を目指すコンソーシアム候補を形成し、**新たな産地育成**に取り組む。

具体的な成果

1. 降雨による果実品質低下を改善する雨よけ栽培技術の確立と普及

■ 低コスト簡易雨よけ栽培技術の確立

2仕様様の簡易雨よけ施設を開発

標準畝幅仕様（畝幅2.5m）：106万円/10a

狭畝幅仕様（畝幅2m）：119万円/10a



標準畝幅仕様の簡易雨よけ

雨よけフィルムの収納を巻き上げ式に改善

■ 簡易雨よけ栽培の普及

簡易雨よけ導入面積 0(H27)→70a(H30)

秀品率の改善

露地：77% → 簡易雨よけ導入：91%

2. 産地間の連携強化

■ 産地間の情報交換や**販売促進に向けた市場との協議による出荷規格の統一**

①市場に応じた出荷パックの統一

県域協議会において、出荷パックの統一を申合せ

湖北地域の2市場：400g

大津・県外市場へは300g

3. 新たなイチジク産地の育成

■平成28年より2JAで新規にイチジク産地化の取り組みが始まる。

普及指導員の活動

■ 3産地に簡易雨よけ施設の実証ほを設置

①露地栽培の多い甲賀、高島、東近江地域に実証を設置し、果実品質・収量の改善効果について検討した。さらに、台風襲来時の雨よけフィルムの収納作業の省力化対策について検討した。(H28～29)

②出荷先の市場に実証ほで生産したイチジクを持ち込み、果実の品質評価を聞いた。(H28)

③実証技術の検討、確立に向けて、生産者やJA営農指導員、さらに普及指導員を対象とした**現地検討会を開催した**。(H28～29)

■簡易雨よけ栽培技術の普及に向けて県域の推進大会や設置研修会を開催するとともに、**簡易雨よけ施設導入マニュアルを作成・配布**して導入を促した。(H28～29)

■イチジクの生産振興に向けて産地、市場との連携会議を開催した。(H28～29)

■新たに産地化を目指すJAと市場とのマッチング会議の開催した。(H29～)

普及指導員だからできたこと

・専門技術を持ち、地域の普及組織と連携して広域で調査研究に取り組むことができる普及指導員だからこそ、技術確立と普及に繋げることができた。

・普及指導員が、産地と市場の両者に働きかけることで、イチジクの産地間の連携を強化することができた。

(詳細資料)

滋賀県

簡易雨よけ導入による収益性の高いイチジク産地の育成

活動期間：平成 28～（継続中）

1. 取組の背景

滋賀県では、水田で簡単に栽培でき、早期成園化が可能なイチジクの栽培面積が伸びてきている。現在、JA単位で産地が形成され、生産量の8割が市場に出荷されている。

栽培方法は産地により多様で、100%雨よけ栽培の産地もあれば、ほとんどが露地栽培の産地もあり、県全体では55%が露地栽培となっている。

露地栽培は、初期投資が少なく取り組みやすい反面、収穫期の降雨により水膨れや裂果、果実腐敗が発生して秀品率の低下や、出荷量の減少により所得の低下に繋がっている。このため、本県では雨よけ化を推進しているが、パイプハウスの導入費用が高く（270万円/10a）取り組みにくいことから、生産者が取り組みやすい低コストな簡易雨よけ栽培の確立が課題となっていた。

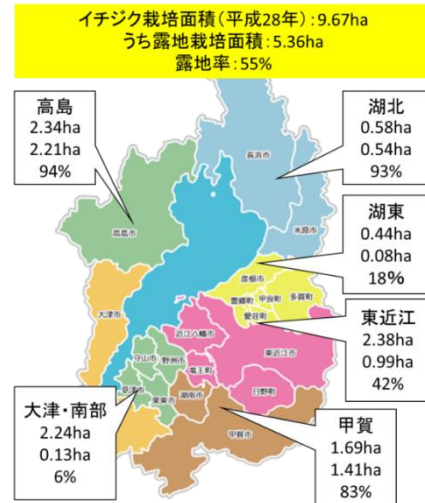


図1 県内イチジク栽培の現状

2. 活動内容

平成 28 年～29 年度に産地ブランド発掘事業を活用しながら技術確立と産地の育成に取り組んだ。

1) 低コストな簡易雨よけ施設によるイチジク栽培技術の確立

県内のすべてのイチジクほ場で取り組めるように、一般的な畝幅 250cm に対応する標準畝幅仕様と、畝幅が狭い 200cm に対応する狭畝幅仕様の 2 仕様を開発し、県内 3 地域で現地実証ほを設置した。

実証ほは、栽培面積が多く露地率の高い甲賀地域、高島地域、東近江地域の 3 地域を選定し、簡易雨よけ施設の導入効果について確認した。また、本技術で生産したイチジクの品質評価を出荷市場に依頼し技術改善を行った。実証ほの取り組み 2 年目には、台風襲来時の雨よけフィルムの取り外しと再被覆の省力化について改良を行った。

2) 簡易雨よけ技術の普及

生産者や JA、関係機関の簡易雨よけ技術についての理解と導入の推進を図るために、現地実証ほを活用した現地研修会や簡易雨よけ施設を実際に設置する研修会、技術を紹介する研修会を開催した。

3) 産地間連携の強化

イチジク生産者の県域組織である滋賀県果樹組合連合会イチジク部会（以下、果樹連イチジク部会）が中心となって、各産地で規格がバラバラ

となっている出荷パックが統一されるよう働きかけ、出荷・販売面で県内産地が一丸となって取り組めるよう誘導した。併せて、果樹連イチジク部会に未加入の産地に対して加入を勧め、県内産イチジクの統一を促した。

3. 具体的な成果（詳細）

低コスト簡易雨よけ施設を開発した。パイプハウスによる雨よけ施設の費用 270 万円/10a に対して、簡易雨よけ施設の導入費用は、標準畝幅仕様が 106 万円/10a、狭畝幅仕様が 119 万円/10a と 45%以下のコストで導入できた。また、簡易雨よけを導入することにより秀品率は 9 割を上回り、収益性の向上に繋がることが実証できた。

簡易雨よけ栽培の理解が深まり、取り組み面積は 70a (平成 30 年) に増えた。

また、市場から出荷パックの容量の少量化

についてアドバイスを受けたことから、湖北市場向け 400g パックと大津・県外市場向け 300g パックへの改善と併せて、産地間でバラバラとなっていた出荷パックを市場別に統一した。

イチジクの生産拡大に向け、J A レーク伊吹と J A レーク大津の 2 J A で新たにイチジクの産地化に向けた取り組みの支援を行った。

表4 簡易雨よけ施設による収益性の改善

円/10a

実証ほ	簡易雨よけ売上	露地売上	売上増	減価償却費等増	販売費増	所得増
甲賀	1,836,578	1,366,290	470,288	145,869	47,028	277,391
高島	588,506	322,354	266,152	173,152	26,615	66,385
東近江	1,714,382	979,140	735,242	145,869	73,524	515,849

※ イチジクの単価は646円/kgで計算

4. 農家等からの評価・コメント

果実品質の安定したイチジク生産には雨よけ化は必要であり、今回の簡易雨よけは取り組みやすい技術である。既存栽培者だけでなく新規栽培者にも活用してもらい産地づくりに繋げたい。（J A 甲賀イチジク部会 A 部会長）

5. 普及指導員のコメント

本県ではイチジクを重点推進品目に位置づけて推進しており、市場出荷により安定した所得が確保できる。市場の期待は大きく、雨に左右されない品質安定に向けた取り組みが要望されており、生産者や関係機関と連携することにより技術確立ができ、また技術の普及に繋げることができた。

（滋賀県農業技術振興センター農業革新支援部 主幹 河合文浩）

6. 現状・今後の展開等

イチジクの簡易雨よけ栽培は 70 a まで面積拡大してきたものの、目標の 3ha に達成していない。今後は地域の農産普及課や J A の研修会と連携し、露地栽培面積が半減できるよう簡易雨よけの普及拡大を進めていく。